

運営推進会議録

記録者(職種)高橋美紀子 心春管理者

開催日 令和 2年 2月 3日

開催場所 ゆーとりあ内会議室

開催時間 10:30~11:30

開催回数 2 回

	所属(職種)	氏名	所属(職種)	氏名	所属(職種)	氏名
会議出席者	保険者	秋本 有子	地域代表	小笠原 憲昭	利用者家族代表	柳館 由紀江
	事務局長	柏山 茂紀	居宅支援事業管理者	堀内 順一	デイスタッフ	中村 雅子
	管理者	高橋 美紀子				
検討内容など	1. 心春の運営状況・現状について 昨年4月～今年2月までの一日平均利用者数7.6人に対し、今年度は6.6人となっていて低迷状態です。3名の方が新規として利用となったが、4名が入所され他のデイへの移行や月の半分をショートステイ利用される方が多い事も減少の要因と思われる。来所拒否や帰宅願望が強く対応に苦戦していた利用者も家族やケアマネと情報交換しながら対応を工夫し、今は落ち着いて過ごせている。					
	2. 事故・ヒヤリの報告 ヒヤリ5件、事故1件、救急搬送1件。うっかりミスや確認不足から起きたヒヤリが多かった。事故報告は初歩的な運転操作を誤った事故。利用者は乗車していなかったものの、今一度スタッフ全員が気を引き締めて業務にあたり大きな事故に繋がらないようスタッフ間で検証、再確認し、再発防止に努めたい。救急搬送はスタッフの気付き、素早い迅速な対応で対処する事ができた。					
	3. 10月からの活動 10月に地域の方達4名に参加して頂き、避難訓練をする事が出来た。利用者7名参加し歩ける利用者は地域の方に付き添ってもらい、約150メートルある距離を歩いて避難する事ができた。紅葉の時期には利用者の負担にならない程度にドライブや散歩などを楽しみ、レクではクリスマス会でおやつ作りをしたり、お正月には福笑いをする等季節感を感じてもらえるよう工夫した。寒くなると外出が難しくなるので					

検討内容など	<p>テレビ体操の時間にはテレビを見ながらみんなで体を動かしたり、午前体操・午後体操で下肢筋力運動に力を入れ筋力低下予防に努めた また、インフルエンザ・カゼ予防対策として来所時には手洗い・歯磨きを徹底し予防に努めた。</p> <p>4、今後の取り組みについて</p> <p>* 地域との関わり</p> <p>・10月に近隣地域の方々に参加して頂き避難訓練をする事が出来た。11月には町内の「だまっこ会」にスタッフ6名子供3名参加し有意義な交流となった。機会を見つけて地域の行事等に参加したいがなかなかできていない。心春をもっと知ってもらう為にも心春に足を運んでもらう機会をどのように作っていくかが課題。</p> <p>* 今後の心春として</p> <p>・施設入所や定期的なショートステイ利用等でどの曜日にも空いている状態。発信の仕方を工夫し利用者確保に努める。暖かくなったら外での活動をしていく(畑作り、散歩、東屋の活用)。地域近隣の方々の温かいご理解と見守りをお願いし繋がりを深めていきたい。</p>
質疑・応答	<p>質疑・応答</p> <p>・小笠原さん～心春の収支について (局長)～利用者が減っているので去年に比べて収入面でとても厳しい状況となっている。</p> <p>・小笠原さん～予定した通所計画で利用出来ているのか (心春)～家族は利用させたいが本人が行きたがらず、2回、3回と家族と連絡を取りながらタイミングを見て迎えに行っても拒否が強く来所出来ない利用者や、経済的理由で利用回数を減らす家族もいる。</p> <p>・小笠原さん～介護度により限度額が設定されるが、全部使えているのか (居宅)～ほとんどの利用者は、限度額の範囲内でショートステイやデイサービスを利用しているが、自立を目的としている中で果たして全て援助する事が良い事なのか、疑問に思う事もある。</p> <p>(秋本さん)～計画はされていても、デイサービスに出す準備等で家族の精神的・体力的負担が大きく、出せない事も回数が減っている要因にもなっている事が多い。</p>

質疑・応答	<p>・小笠原さん～介護度5の利用者が2人いるが、心春で受け入れできているのか</p> <p>(心春)～寝たきりや車いすの方なので湯船に入っでの入浴は厳しいが、家族の要望を聞きながらシャワーチェアを使用しバケツでの足浴をしながらシャワー浴をしたりと、対応できる範囲で気持ち良く入浴してもらえるよう工夫している。</p>
	<p>秋本さん～去年から「認知症かようカフェ」に心春からもスタッフが参加している事で、来ている方々と面識や繋がりが出来、スムーズに利用の方向へと繋げる事が出来ると期待している。</p>
	<p>(心春)～利用者の家族に毎回「かようカフェ」のお知らせをし、参加してもらえるようにしている。日頃の家族の悩みや疑問、抱えている事等気持ちを話し参加されている方々の話を聞いて、少しでも気持ちが楽になり今後の生活に活かしてもらいたい。心春のスタッフが参加、交流する事で情報を発信し心春を知ってもらえる事が出来る。スタッフにとってもスキルアップになる。</p>
	<p>居宅～国が介護予防として地域に投げかけているが地域としてはどうなのか</p>
	<p>(小笠原さん)～町は行政に依存し過ぎているのではないかと。何年か前に町内の会館を居場所作りとして何時でも誰でも好きなように利用できるような、施錠せず開放してみたが誰も利用せず失敗に終わった。一人暮らしや認知症の人が増える中、危機感を持たなくてはならない。行政にばかり頼らず地域性を生かしながら高齢者の居場所作りを考えていかなくてはならない。</p>
	<p>局長～利用者のニーズや家族の悩み・要望等を支援に繋げられるように心春でアンケート調査を実施する予定になっている。家族の負担軽減やより良いケア、支援に繋がっていききたい。</p>
結論	<p>今後も地域とうまく繋がりがながら、積極的に町や地域の方々に認知症や心春を知ってもらい理解してもらえるよう努める。ヒヤリが大きな事故に繋がらないよう、今後も気を引き締めて支援に努める。</p>
残された課題	<p>町や地域の方々、いろんな方面から情報を募りながら利用者確保に努めていきたい。利用者一人一人のニーズや家族の要望に応えられる支援を目指していきたい。</p> <p>(次回開催時期)令和2年9月予定</p>